

策定年月	令和5年2月
見直し年月	令和6年3月

麦・大豆国産化プラン

産地名：米子市

(作成主体：米子市農業再生協議会)

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

本市の農業は、土壌の分布状況から、おおまかに弓浜半島の畑作地帯と南部及び淀江地区の稲作地帯とに分かれる状況である。

弓浜半島では主に、白ねぎ、にんじん、施設園芸、葉たばこ等の生産が盛んであり、南部及び淀江地区の水田地帯では稲作の単一経営が多く、山沿いに畑地、梨、柿、りんご等の樹園地が拓けて、主に水田地帯では、水稻栽培と大豆栽培がブロックローテーションにより盛んに栽培されている。しかし近年では、農業者の高齢化と後継者不足及び担い手不足により離農される農家もある状況だが、その一方で経営規模の拡大等に意欲的に取り組む認定農業者や若手の担い手となる新規認定就農者も少しずつ増えつつある状況でもある。また農地の貸し借りによる規模拡大と農地の集約化を図り生産性を高めるよう農地の流動化対策を関係機関と連携して取り組んでいる。

【麦・大豆生産の現状と課題】

本市の麦・大豆の作付面積(R4)は、87.9haで全体の4.7%であり、海外からの輸入依存が高い作物でもあり、鳥取県推奨品種の「ほしのめぐみ」の生産販売を強化し、収量、品質向上を目指して作付面積の拡大を強化するよう、米子市農業再生協議会に団地化計画の推進について検証を行っている。

また課題として、麦・大豆ともにほ場内の排水対策が重要であり、近年の温暖化による大雨により発芽しないなどの、湿害への対策と、高性能機械のドローンやコンバインの導入により、生産性の向上を図りたい。

【課題解決に向けた取り組み】

湿害対策の強化を図るため心土破碎や弾丸暗渠施工により、排水処理の向上を図り、高性能機械の農業用ドローンによるほ場センシングや農薬肥料散布を行い効率性を図るとともに、脱粒が少ない性能の高いコンバインが必要と考える。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、運作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

本市では、主に大豆生産の強化を図り、[redacted]で収穫された大豆は[redacted](以下「[redacted]」という。)から[redacted]へ全量出荷している。

〈大豆〉

	産地：米子市農業再生協議会	実需者： [redacted]	最終実需者
R5現状(R4)	97,320kg	97,320kg	[redacted]
R6現状(R5)	112,049kg	112,049kg	
R5目標(R7)	127,000kg	127,000kg	
R6目標(R8)	146,300kg	146,300kg	

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

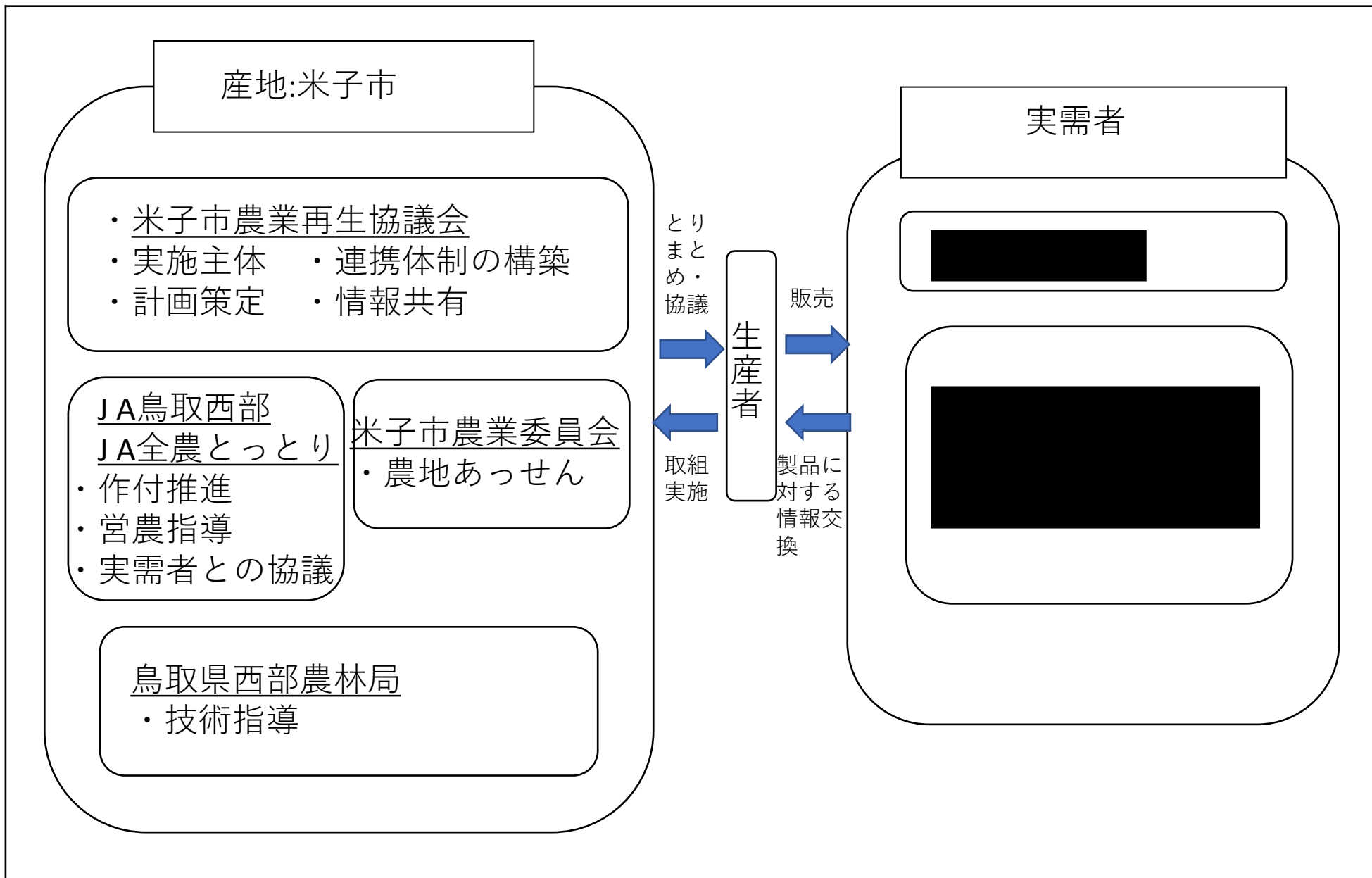
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。